

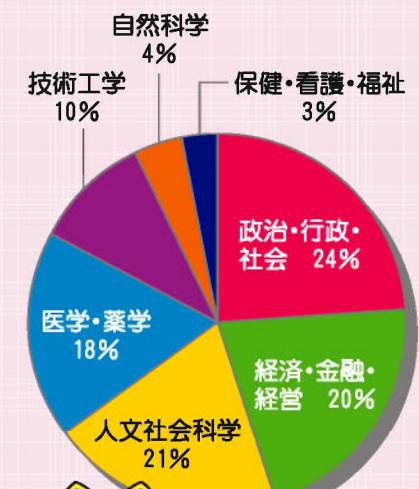




## 受託分野 ~さまざまな分野のお手伝いをしています~

### 技術工学

テープおこし業界には女性が多いためか、他社では苦手にしているよう。アドレスの隠れたお奨め対応分野。



### 制作者コメント

省略されがちな単位を補つたり、数値の言い間違いがないか確認したり、厳密な事実の再現がポイント。

### 医学・薬学

日増しに社会的なプレゼンスを増している医薬分野。アドレスのテープおこしも年々この分野のお手伝いが増えています。

### 制作者コメント

薬品や化学物質の名前など日常的にはまったく耳にしない言葉が目白押し。特に正確な再現が求められますが、テクニカル・タームを頭に溜め込むことが制作のポイント。



### 政治・行政・社会 経済・金融・経営

社会生活に関わる政治経済を中心としたいわばゼネラルな分野。十分に対応するには、幅広い知識を日々アップデートしていかなければなりません。

### 制作者コメント

ニュースよりも早く最先端の話題に触れることもあります。おくれて新聞などで目にすると、ちょっと懐かしがったりして…。

### 人文社会科学

骨のある哲学から、人気の歴史物、言語学から民俗学まで教養が問われる(?)分野です。

### 制作者コメント

内容に骨があればあるほど仕上がりの達成感は大きいです。知的好奇心を満たしてくれる大好きな仕事です。



## 発話形式 ~お手伝いする件はインタビューから講演まで色々~

### 座談・対談

話の飛躍や省略が少なく無く、意外と難しい形式。含蓄のある対談であるほど、想像力と知識が問われます。

### 制作者コメント

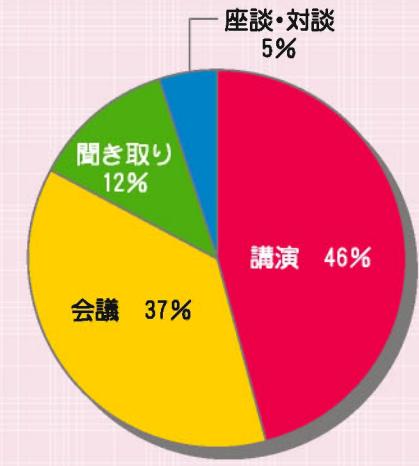
やりとりの雰囲気を壊さないように気をつけています。面白くもありますが、実は難しいジャンルです。

### 聞き取り

調査のために企業の社長にインタビューをするのも、学術的な聞き取り調査も、オーラルヒストリーインタビューもこのカテゴリー。文章化された音声が、雑誌編集者や研究者によって活用されています。

### 制作者コメント

とにかく正確さが一番。語尾一つで流れが変わることもあるので、細心の注意を払って聞き取ります。



### 講演

このカテゴリーには、セミナーやスピーチなど聴衆に話しかける形式のものを含んでいます。やはり一番多いのがこの形式です。

### 制作者コメント

講演した先生の校正の負担が非常に軽減できること請け合いで。大評判!!

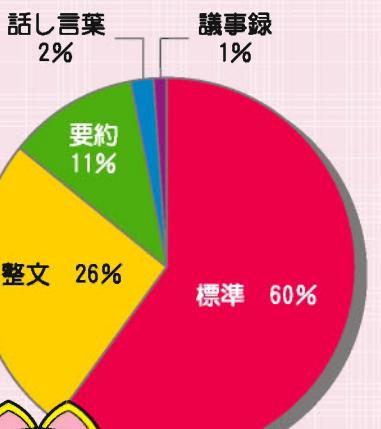
### 会議

会議の重要性が増せば増すほど厳密に記録を取りたいところ。多くの人の声を聞き分けたり、会議の伏流線まで想像しなければよい会議録もできません。

### 制作者コメント

発言者の立場や話の流れを理解することが大事。気持ちちは会議に参加しています。

## 仕様 ~テープおこし仕様の色々。用途にあわせてお選びください~



### 話し言葉

利用勝手の良くない話し言葉をそのまま再現する仕様は、やはり利用者はわずか。内訳を見てみると、ほとんどは言語学や社会学など研究素材のインタビュー。

### 標準

汎用性の高さから、圧倒的な支持を得ています。雰囲気が重要なインタビューから学会報告まで上手に再現。書き言葉に整理されているので、成果物の加工や編集にも便利。簡単なように見えますが、アドレスならではの隠れたノウハウが詰められています。

### 制作者コメント

「〇〇をやっている」は「〇〇する」(検査をやっている→検査する)と変えたり、「〇〇ということは」での冗談「ということ」を省いたり、口語的な表現を読みやすくなるように整理するのが、キホンのキです。  
「言ったこと」を再現するのではなく「言いたがったこと」を正しく、伝わりやすく再現することがアドレスの「テープおこし」と考えています。

### 整文

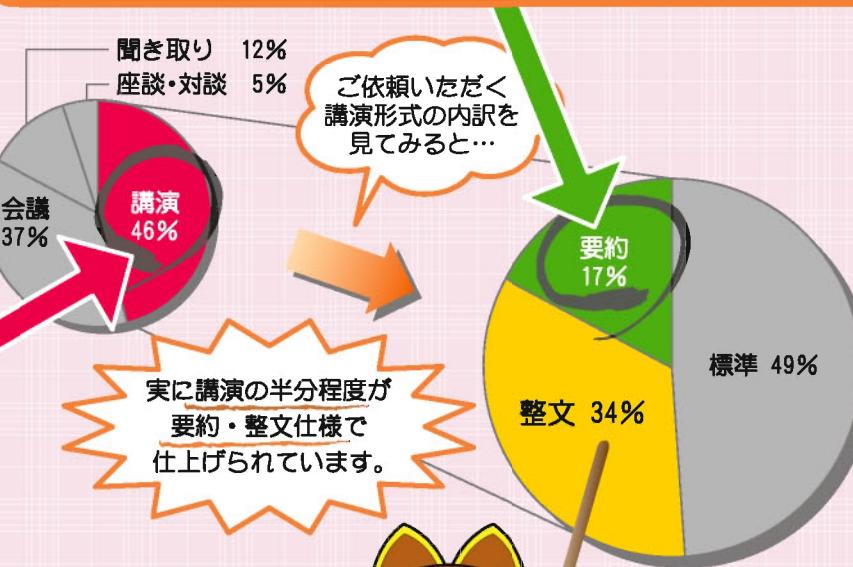
やはりユーザーからの支持が根強い。アドレスの「テープおこし」たる所以となる仕様。文章整理のテクニックや内容理解が必要とされます。その技術が標準仕様や要約仕様に活かされています。

### 制作者コメント

最近は発表者がパワーポイントを使うのが当たり前で、「ここ」とか「こっち」のように、声を文字にするだけでは意味の分からぬことが多いなくなっています。言葉を置き換えて意味の分かれる文章に仕上げることを心掛けています。

## 要約(サマリー)作成紹介

～文章テクニックのすべてが込められた「要約」を知れば～  
アドレスの「テープおこし」が分かります！



### 要約の技法

ご依頼いただく講演の「テープおこし」のうち、実に半分程について「整文」「要約」の仕様でご利用いただいている。

### 制作者コメント

編集度が高い案件では、用途やその後どんな工程を経るのか（そのまま印刷したい、講師校正が入る、記事の素材として利用する等）、文のトーン（雰囲気を残す、書き言葉で硬い感じにしたい等）の希望などが明確であると、ご要望の仕上がりイメージにより近いものになります。

### 制作者コメント

特に分量の少ない要約（3割以下）の場合、

- ・記事風（三人称）
- ・相似形の要約（一人称）

の二つのパターンがあり、前者の方が簡潔で格好良く、後者の方が話し手のニュアンスやその場の雰囲気を残した仕上がりになるという特徴があります。掲載する媒体や対象によって、どちらがより適しているか、どちらのイメージを好まれるか伝えていくだけになると、よりご満足いただける仕上がりになると思います。